

シラヒゲソウ *Parnassia foliosa* Hook.f. et Thoms. var. *nummularia* (Maxim.) T.Ito

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。湿地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は3~8本が束生し、分枝せず、高さ15~30cmになる。根出葉は2~13cmの長い柄があり、葉身は広卵形、長さ幅ともに1.5~4cm、先端は円形で凸端に終わり、基部は深い心形である。花茎には4~6個の無柄で多少茎を抱く茎葉がつく。開花期は8~9月、茎の先端に直径2~2.5cmの白い花を1個つける。花弁は5枚、卵形で長さ9~12mm、縁は糸状に細裂し、基部は急に細まり、花時には斜開または平開する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田北西部（芹沢 50812）、1カ所だけに自生しており、現在は市指定の天然記念物として保護されている。岐阜県美濃地方には点在する。

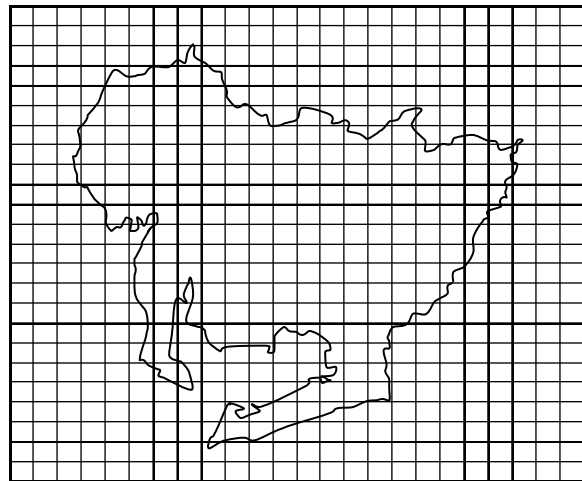
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿地やその周辺の林縁などに生育する。愛知県の生育地は、丘陵地の沢沿いの湧水のある場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地自体は保護されているが、周囲の樹木が生長して被陰され、次第に衰退している。水源となる丘陵地の保全も心もとない。台地の上が開発されれば、存続は困難である。。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採して光条件を回復させると共に、水源部の保全を図る必要がある。

【特記事項】

同属のウメバチソウ *P. palustris* L. var. *multiseta* Ledeb.は、愛知県の湿地には比較的多く生育している。

【関連文献】

保草 p.143、平草 p.154、SOS旧版 p.56。